

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504617		
法人名	特定非営利活動法人 エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷引野		
所在地	広島県福山市引野町北5丁目22番5号		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和2年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所独自の理念「笑顔で優しい対応」「楽しみの時間探し」「今までの生活を大切に」「食事の雰囲気作り」「一人ひとりを見つめた対応」を職員全員で取り組んでいます。
 食事、入浴、排泄、睡眠といった、基本的な生活行為を大切に考える。
 「その人を知る」「理解する」と言うことを職員間で統一しあい、利用者様に馴染みの場所として楽しみ、生き生きとした生活が送れるよう、地域密着型施設として地域に貢献できる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点として、①理念を毎朝唱和すると共に管理者からの声かけにより、理念が共有され、実践へと繋ぐことができています。②利用者が穏やかに過ごせるよう、ケース担当者が利用者の把握に努め、家族や職員と相談・情報共有しながら、支援している。③管理者が職員や利用者の様子に気付くよう心がけ、必要に応じて対策を講じることで家族との信頼関係が築かれていることが挙げられる。工夫点として、家族が参加できる時間帯にカンファレンスを設定することで、家族の意見や要望を取り入れ易くし、介護計画書を医師にも報告し、意見を伺うこと。担当職員考案による音楽会・バーベキュー・誕生日会、敬老会などの行事が毎月あり、利用者にとって楽しみとなっていること。職員は、洗濯物たたみ・食事の下ごしらえなど、利用者一人ひとりの力を活かした対応を工夫し日々過ごしていることが挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に職員で理念を唱和し、実践に繋がるように心掛けている。	理念を事務室と職員トイレ内に掲示し、毎朝唱和し共有している。ミーティングや管理者からの声かけで意識づけ、実践につなげている。職員は個人目標を設定し、半年毎の個人面談で、振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除への参加、回覧板の共有を行っている。 ボランティアの受け入れも定期的に行っていたが、今はコロナ感染予防のため中止している。	町内会に加入している。回覧板で地域の情報を得ており、管理者が総会や清掃活動に参加している。事業所を気にかけて、古新聞や野菜・衣類などの提供や声をかけてくれるなど地域住民と交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方への支援、取り組み等を伝えている。 今はコロナ禍の為中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、その中でサービスの内容を報告し、意見交換を行いサービス向上に活かし、取り組んでいる。 今はコロナ禍の為中止している。	今年1月までは町内会長・民生委員・東部市職員・包括支援センター・法人本部などの参加を得て開催していた。市の方針により現在は中止している。町内会長へ中止報告の電話で話をすることで関係継続に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、施設運営への取り組みを報告している。その上で、意見交換し協力関係を築くよう取り組んでいる。 今はコロナ禍の為中止している。	運営推進会議を通して市職員と情報や意見交換を行っていた。連絡や生活福祉課の来所で管理者が相談事を行い、介護保険更新申請はケアマネが連携を図っている。感染対策など必要な情報は、市からの連絡等で情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員を選任し、2ヶ月1回本社にて委員会に出席。それを基に施設で勉強会を開催し意見交換を行い拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	2ヶ月に1度、本部の身体拘束虐待委員会に参加し、毎月事業所で情報共有や勉強会・意見交換を行っている。気になる事例があれば、その都度声かけし、対応の工夫で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1度の委員会を通じて、ミーティング等で話し合い、虐待が見過ごされる事のないように定期的に意見交換の場を設け、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	困難な事例については、市町村へ相談を行い対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき説明を行っている。面会の時など不安、要望等あれば聞かせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。 面会の際には話しかけを行っている。 カンファレンスの時に意見等あればお聞きするように努めている。	利用者は日常生活の中から、家族はカンファレンスや面会時に意見や要望を聴いている。 入浴を嫌がる人や足浴を希望する家族に対して、利用者の思いを大切に、職員、家族と対応を話し合い、協力しながら要望を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを行い、意見を交換しながら共有し運営に反映するように努めている。	日常の業務や半年毎の個人面談などで意見や要望を聴き、購入物品の検討や個々の利用者への対応に活かしている。管理者は職員の様子を気にかけて話を聞く機会を設け、必要に応じて対策を講じるなどで反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を年に2回行い、より良い業務を行えるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修、勉強会等に参加しスキルアップに取り組んでいる。 今はコロナ禍の為中止している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内では委員会での交流があるが、他事業所との交流はコロナ禍の為難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を行う中で一つでも多くの情報を知る。 本人様の生活歴を知り、要望に傾聴しながら信頼関係を築く。初期の段階で不安が募る為細心の配慮をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所の際に、情報交換を行い、しっかりとコミュニケーションを取り、要望を言いやすい雰囲気作りを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時や、入所が決まった最初の段階で、本人様、家族様の要望をしっかりと聞き、今何を必要としているかをきく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂き、一緒に行えば出来ることは、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡、報告を行っている。 家族様との関係が途絶えないようコミュニケーションを取るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の話を聞いたり、思い出話を聞く事でその人を知り、その人に寄り添えるように努めている。	法事や家へ外出する人もあったが現在はコロナ禍のため自粛している。家族の面会や電話で関係継続の支援をしている。職員は利用者と昔話で回想し、思いを表出できるように話を聴くなど心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日で違いますが、相性もあり、職員が間に入りながら、コミュニケーションが図れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族様が、新聞 野菜などを持ってきてくださる。 何か催しがあるときなどには、声掛けをして来てもらっている。 今はコロナ禍の為中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に対話を忘れず、その中から要望を把握し、支援できるように努めている。	職員は行動や表情から利用者の状態の把握に努め対応している。利用者の好みなど家族から情報を得て、利用者のこれまでの習慣を大事にしている。職員は15時にお茶の時間を設け、利用者の思いを聴きとり、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に聞いている事、本人様との会話の中で得た情報、家族様との話のうちで知る暮らしを把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定時、表情や言動の中から、心身状態 健康状態の把握に努める。特変があれば、申し送りを行い職員全員で共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当者、管理者、計画作成者で暫定で計画作成し、本人様、家族様、医師の意見を反映している。 6ヶ月に1度、担当者会議を行っている。	ケース担当者とアセスメントを行い、計画作成者が暫定計画を作成し、家族参加のカンファレンスを開催し意見を反映させている。介護計画書をかかりつけ医にも報告し、確認する取り組みをしている。3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、申し送り時、介護記録等で情報を共有している。 計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態が変わった時には、医師、家族様、職員で話し合い、本人様、家族様の要望に応えられるよう努めていく。 形にとらわれず、その人らしく1日を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの人に来所して頂いたり、生け花教室への参加を行っている。 今はコロナ禍の為中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、主治医に往診に来て頂いている。 急変時は医師に連絡し、家族様と連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援しています。	従来のかかりつけ医を継続でき、個々に月1～2回の往診がある。薬などの変更があれば家族に連絡している。定期的に家族と受診する人もいる。夜間・緊急時はかかりつけ医に連絡し、指示にて対応している。必要時、歯科の往診を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定を行う。 体調の変化に気付けるよう努める。 必要に応じて訪問看護ステーションにも連携し、適切な医療が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、地域連携の方と連絡を取り、情報の共有をしている。 病院での説明には同席させて頂き、相談、情報の共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針の説明を行っている。 終末期には家族様、主治医と職員とでカンファレンスを行い、連携を保っている。	契約時に事業所での指針を説明している。 家族の意向を確認し、医師・訪問看護師と連携しながら、看取りを行っている。職員が安心して対応できるように声かけや情報提供を行い、理解を深めながら取り組んでいる。急変時にはマニュアルに沿って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを基に、事故発生時の対応に努めている。 急変されたら、医師、家族様への連携も見えるよう、日々職員間でも連携に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。 隣接する小規模多機能と共に行っている。	隣接する小規模多機能ホームと合同で、利用者と一緒に水消火器を使った消火避難訓練を行い、振り返りもできている。備蓄は1週間分の準備があり、地域住民が避難して来られるよう協力体制を築いている。	コロナ禍ではあるが、小規模多機能ホームと協力しながら夜間想定を含めた年2回の避難訓練を実施し、職員の安心につなげることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方を理解し、自尊心を傷付ける事のないように配慮しながら、優しい声掛けを行い、尊厳を考えた対応を行うように、日々職員間で話し合い気を付けている。	トイレ内のパッド類の私物はイニシャルで表示し、プライバシーの確保に努めている。トイレ誘導や入浴など、場面や個々に沿った対応の声かけを職員で相談、共有し、一人ひとりの人格の尊重に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう、選択肢を出してみたりしながら、話しやすい環境を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者様の状態に応じて、個々のペースで過ごして頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを知り、その人に合ったおしゃれを楽しんでもらえるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等、食事作りを一緒に行う。テーブル拭き、下膳、お盆拭き等、それぞれに出来る事を行えるように支援しています。	家庭菜園で収穫した野菜を利用しながら職員が調理している。野菜の下ごしらえ、下膳などを協力してくれる利用者もいる。食前の口腔体操、食事の形態や彩り・食器の工夫で食事を楽しむことができる支援をしている。バーベキューや誕生日会、敬老会などの行事食が利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事形態での提供。水分は何度かに分けて、こまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、状態に応じて、歯ブラシ、スポンジ、ガーゼ等利用している。義歯を装着されてる方は義歯ブラシで洗浄、夜間はお預かりし、洗浄液に浸け清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように声掛けを行いトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄ができるよう、支援していく。	介護記録に基づいて声かけを行い、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄している。朝のラジオ体操、個々に浴った一部介助や見守りの対応でトイレでの排泄を維持するための支援をしている。声かけの工夫でトイレでの排泄が可能になった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のバランスや水分摂取に配慮している。ヨーグルト、牛乳、青汁等飲用して頂き、医師、看護師に相談の上、排泄がスムーズにできるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日のタイミングや希望で、ゆったりと入浴出来るよう支援している。入ることが苦痛に感じないような声掛けを話し合い工夫して支援しています。	基本週2～3回午後から入浴している。側面が上下する浴槽で安全面に配慮し、シャワーや暖房の使用で保温に留意し、支援している。職員との会話を楽しむ人もいる。入浴を嫌がられる人には職員の声かけや対応の工夫、家族からの声かけの協力を得ながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々で、居室の方へ戻られ横になられたり、室内を片付けをしたりしている。室温の調節を行う。シーツ交換行い、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どの病状に対してどのような薬を服薬しているのか、副作用など薬事を見ている。薬の変更があれば必ず送り共有する。症状に変化があれば医師に連絡する。服薬は飲み込まれるのを確認するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、本人様の出来る事は手伝ってもらい、日々の役割とし個別に支援が行えるように努めている。音楽を好まれる方が多い為、DVDで昔の歌を流している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行訓練も兼ねて、屋外を散歩する。車中から花を見たり、景色を楽しめるようドライブに行き、気分転換できるように努めている。	プランとしての歩行訓練を兼ねての散歩や畑の水やりなどで日常的に屋外に出ている。ドライブやバーベキューなどの毎月の行事があり、戸外へでかける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人で必要な物は、家族様に相談した上で購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に電話があれば取りつないでいる。年賀状を書いてもらい、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁面に利用者と一緒に作成したものを展示している。 居室には写真や手紙を貼り、馴染みの物を持って来て頂くなど、安息に生活してもらえよう努めている。	木材を使用した広いリビングは、暖かい日が差し込んで明るい。清掃や整理整頓が行き届き、静かで落ち着いた雰囲気である。利用者はリビングに集い、歌や体操、会話を楽しんでいる。壁面には職員と利用者が一緒に作成した季節感のある作品などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う、合わないがある為、席を配慮している。 ソファー、畳を活用し本人の意思に任せて座って頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりのニーズに対応し今までの生活に近い環境にと配慮している。 馴染みの物を飾り落ち着ける環境作りを行う。	馴染みの寝具やテレビなどが持ち込まれ、壁には職員手作りの作品や日課表などが飾られている。安全面に配慮して整理整頓がなされ、居心地よく暮らせる工夫をしている。鏡台を持ち込み自分で化粧を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置等わかるように張り紙をしている。 カレンダーを貼っている。 1日のタイムスケジュールを貼り、1日の流れがわかるように支援している。		